

**全教**  
**豊中教職員組合**  
**とよなか**  
 2022年9/21  
 No.633  
 豊中市桜の町3-12-10 3F  
 〒560-0054  
 TEL (06) 7161-4161  
 FAX (06) 7161-2511  
 WEBページ 検索：【全教豊中】

## 性急な新出退勤システム本格実施

2学期から新しい出退勤システムが始まりました。市教委は「導入当初、慣れるまでは大変だが、負担軽減になる」

「勤務時間の把握が自分でもできて、勤務時間を短くしようという気持ちになる。」  
 市教委は動画を視聴して使方を覚えてほしいといいました

### 3時30分退勤で2時間休暇を求められる!? —— 1時間休暇でOK

ある学校で3時30分に退勤しようとする2時間休暇を求められたそうです。

しかし、新システムでも1時間休暇で問題はありません。

例) 休憩時間明示 3 ; 30 ~ 4 : 15 の場合

3 ; 15 ~ 3 : 30 休暇 (15 分間)

3 : 30 ~ 4 : 14 休憩時間

4 : 15 ~ 5 : 00 休暇 (45 分間)

15 分 + 45 分 ~ 1 時間

※時間休暇は最大3分割してとることができます。

質問一覧(4)にも同内容の質問に対する回答がされています。市教委にも直接上記の件は、確認をしています。

※長期休業中や休憩時間が別設定な場合はかわります。

が、試行期間も全く設けず、また、使用マニュアルも本格実施直前まで示されませんでした。

いきなり本格実施が始まり、管理職からも、すでに58項目にのぼる多くの質問が(8月29日現在)出されています。

### 出張届けはデータも紙もで

#### 負担増加!

本格実施スタート後(8/31付)に、市教委は「旅行命令簿兼旅行明細書」の取り扱いを伝えていきます。本来なら本格実施前に、ていねいに説明し、基本的な疑問点を解消し、試行してから本格実施するべきではなかったでしょうか。

### 一番の負担増は管理職(教頭さん)

システムの管理者である教頭さんは「このシステムの管理をするのに、これまで以上に時間を費やされることになる」と、あるICT支援員さんは語っています。

### 「1時間休をとるのをやめた」

システムの入力とともに、ある学校では管理職からの「お願い」として紙の年休表の提出を求められています。管理職が学校日誌への記入や行事黒板への転記などで業務が増えている中で、「こうした「お願い」を職員に求めていることが考えられます。慣れないデータ打ち込みと紙の年休表を提出をしなければならぬということ、ある学校では

「今日は、1時間休をとって帰ろうと思ったけれど、紙の年休届とまだやり方を十分理解して入力をしないといけないので、休暇をとるのをやめました」、こんな声が寄せられました。

これはどうなの? 疑問の声を全教豊中教組にお寄せください。

# 原水爆禁止大会に

## 参加して (2)

久保田 百合 (一中)

### ☆ウクライナのロシア侵攻について

いくつかあるテーマ別集会の中で、「平和の国際ルールと戦争、核兵器廃絶」ウクライナ危機を考える」の分科会に参加した。日本のニュースではあまり取り上げられない現地での状況が赤裸々に語られた。そこではTVやSNSなどで国による情報制限がかけられ、市民が戦争の平和的解決を求める声を上げれば罰金刑や刑務所への収監が行われていること、ウクライナでは18〜60歳までの男性が国外退去禁止・軍属へと引っぱり出される、原発のある発電所で働いているウクライナ人は、爆弾が飛び交う状況が日常で日々危険にさらされている、安全な場

所を失った子供や女性たちの困窮した生活など、他にもたくさんありここには書ききれない。中には現地ではなく、逃避している第三国からの発信があったことも驚きであった。

### ☆原水爆禁止運動として行われていること

運動は、核兵器全面禁止と廃絶、被爆者援護・連帯を目的としている。日本が核兵器禁止条約を批准するための署名を進めることやロシアがウクライナ侵攻をやめるよう人権擁護している団体に協力(情報を得る、募金する、メッセージを送るなど)していくことなどが提案されていた。戦争の犠牲になるのは、兵隊だけではなく一般市民や罪のない多くの人たち。そして争いのある両方の国で人権侵害がおこっている。こんな卑劣で悲しいことはありません。原爆被害者の方々が、命をかけてその体験談を語って下さり、反戦の気持

ちを音楽やメッセージにして世界に発信されている現実をしつかり受け止めていきたいと感じた。

### ☆最後に

今回大会に参加して思ったことは、平和を求める「不断の努力」が必要だということ。国内外の多くの国と地域からの報告と発信を聞いて、近くの人に何が起きているのかをアピールしたり、考えを伝えあったりすると、今何が起きているのか、それは真実かどうか、どう思いうかを知り合うことが大切だということである。

小学6年生だった当時私は、修学旅行で被爆被害者の沼田鈴子さん(2011年没、87歳)から体験談を聞いた。「お時間はありませんか。むこうで沼田鈴子さんの紙芝居をやっていますよ。よかったら見に来てください。」と公園内で声をかけてくれた高校生と出会った。彼女の被爆体験談を伝えるという活動が今ま

た次の世代に継承されていることを知りとても嬉しかった。

はたして自分ができることは何か。大きなことは到底無理だが、少しでも他人事ではなく自分事としてとらえられるようにテレビや新聞、ネットニュースなどで平和や戦争についての番組を見て、生徒や家族、周囲の人たちと一緒に話題にしてみることを始めようと思う。

戦争はお互いが歩み寄ることができない状態が原因となっておこるのだろう。それができる環境を作ることが大切であると思う。

【終】